エリック・ロメール　Éric Rohmer

1920年3月21日生まれ。1959年に長編映画『獅子座』を監督。ゴダールやトリュフォーより10歳ほど年長の彼は、ヌーヴェルヴァーグの兄貴分的存在として「親愛なるモモ」と呼ばれ親しまれました。今回上映される〈六つの教訓話〉シリーズをはじめ、〈喜劇と格言劇〉シリーズ（『美しき結婚』『緑の光線』ほか）、〈四季の物語〉シリーズ（『夏物語』『恋の秋』ほか）など、2010年に亡くなるまで数々の作品を発表。映画のみならず、舞台やドキュメンタリーの製作も手がけ、映画批評家としても活躍しました。ある時はパリの街角、ある時は避暑地の湖畔を舞台に、軽やかに動き回る女たちと悩める男たち。哲学的なテーマの中、人の心の機微を鮮やかに捉えたロメールの作品は、時代を超えて愛され続けることでしょう。

六つの教訓話　Éric Rohmer : Six contes moraux

Aプログラム

〈第一話〉

モンソーのパン屋の女の子

La Boulangère de Monceau

製作・出演：バーベット・シュローダー
撮影：ジャン＝ミシェル・ドリス、ブリュノ・バルベ
1962年／フランス／スタンダード／モノクロ／23分

学生の“私”は街でよく見かける美しい女性、シルヴィーに恋をする。友人にそそのかされその気になった“私”は思い切って声をかけるが、その日から一切彼女の姿を見なくなってしまった。シルヴィーを探し求めて彷徨う“私”は、パン屋で働く女の子と仲良くなって…。〈六つの教訓話〉シリーズの第一作にあたる短編。盟友シュローダーが製作も主演を兼ねているが、“私”のモノローグはベルトラン・タヴェルニエが担当。

Aプログラム

〈第二話〉

シュザンヌの生き方

La Carrière de Suzanne

出演：カトリーヌ・セー、フィリップ・ブゼン、クリスチャン・シャリエール
撮影：ダニエル・ラカンブル
1963年／フランス／スタンダード／モノクロ／55分

真面目な薬学部1年生のベルトランにとって、気ままに生きる悪友ギョームは憧れの対象。そんなギョームが付き合い始めたのは、夜学に通う平凡な容姿のシュザンヌ。彼氏に尽くすシュザンヌに憐れみを感じていたベルトランだったが、やがて別れたシュザンヌはベルトランに接近、いろいろと世話を焼くようになる。切なく残酷な青春の一コマ。低予算で製作されながらも、その後のロメールの作風を決定づける重要な中編。

Bプログラム

〈第四話〉

コレクションする女

La Collectionneuse

出演：パトリック・ボーショー、アイデ・ボリフ、ダニエル・ボムルール
撮影：ネストール・アルメンドロス
1967年／フランス／スタンダード／カラー／87分

画廊のオープンを控えたアドリアンは、恋人からの誘いを断り商談のためサントロペへ。友人の別荘に滞在する彼は、そこで美しい少女アイデに出逢う。コレクションのように次々と男を引っかけるアイデに苛立ちながらも惹かれるアドリアン。南仏の色鮮やかな風景のもと、自由奔放な少女に振り回される男たちの姿がおかしみを誘う。撮影監督アルメンドロスがはじめて手掛けた35mmカラー長編。

★ベルリン国際映画祭銀熊賞

Cプログラム

〈第三話〉

モード家の一夜

Ma nuit chez Maud

出演：ジャン・ルイ＝トランティニャン、フランソワーズ・ファビアン、マリ＝クリスティーヌ・バロー／撮影：ネストール・アルメンドロス
1969年／フランス／スタンダード／モノクロ／111分

技術者の“私”は、久々に再会した旧友とともに女医モードの家を訪れる。互いに惹かれ合うも、敬虔なカトリック信者で堅物の“私”と無神論者のモードの恋愛観はかみ合わず、奇妙な一夜を過ごすはめに。アメリカでも高く評価され全米映画批評家協会賞などで脚本賞を得た秀逸な会話劇。トランティニャンのスケジュールの都合で完成が遅れたが、シリーズ三作目にあたる。

★全米批評家協会賞脚本賞　★NY批評家協会賞脚本賞

Dプログラム

〈第五話〉

クレールの膝

Le Genou de Claire

出演：ジャン＝クロード・ブリアリ、オーロラ・コルニュ、ベアトリス・ロマン
撮影：ネストール・アルメンドロス
1970年／フランス／スタンダード／カラー／106分

別荘を売却するため避暑地アヌシーに赴いた外交官のジェロームは、旧友の作家オーロラと再会。オーロラの口車に乗って、ローラとクレールという美しい姉妹を誘惑することになるジェロームだったが・・・。結婚を間近に控えたもう若くはない男が10代の少女の膝に執心するという一見不道徳な物語だが、あふれ出るユーモアとあっけらかんとした官能性が絶妙なバランスで均衡するロメール美学の白眉。

★ルイ・デリュック賞　★サン・セバスチャン国際映画祭グランプリ
★全米批評家協会賞作品賞

Eプログラム

〈第六話〉

愛の昼下がり

L'Amour l'après-midi

出演：ベルナール・ヴェルレー、ズズ、フランスワーズ・ヴェルレー
撮影：ネストール・アルメンドロス
1972年／フランス／スタンダード／カラー／98分

パリに事務所を持つフレデリックは妊娠中の妻と娘と郊外で暮らす。生活に不満があるわけではないが、どこか満たされない日々。そんなとき友人の元恋人クロエと偶然再会、その日からクロエはフレデリックの元を頻繁に訪れるようになり、彼もまたクロエの魅力に抗えず彼女との関係を夢想する。はじめて既婚男性が主人公のシリーズ最終作。過去作6人のヒロインたちがフレデリックの白昼夢に特別出演している。

エリック・ロメールほど、生を通じて「面白い」映画だけを作り続けた人はいない。面白い映画を探している人は皆、どうかまずこの「六つの教訓話「道徳的コント集」」シリーズを発見していただきたい。しかし、これらの映画からどのような教訓を引き出すこともできはしない。誘惑に右往左往する男たちの姿に「道徳とは果たして何か」と宙吊りにされるのみだ。しかし、面白い映画というのはそもそもそういうものなのだ。答えは宙吊りにされ、私たちは永遠に誘惑され続ける。

——**濱口竜介**（映画監督）

初めてロメール作品を観たのは白黒映画を観るために名画座に通っていた時だった。言葉の通り、世界が色づきキラキラと全てが輝いてみえた。それから私はロメール作品に恋をした。物事の善悪ではなく、美しいから良いという、曖昧でシンプルな芸術の寛大さを、息の詰まる現代を生きる私たちにも教えてくれる気がする。

——**石橋静河**（俳優）

出てくる人みんな身に覚えのあるダサさがあって、しょうもな…と思うにつけ自分も痛い。彼らは話しているというより誰かに喋らされている。都会ってそういう場所だ。滑稽で、なんか気持ちいい。快感のあとは、疲れ。俺の心には風が木々を揺らす音、人気のない浜辺の水平線、街を行き交う車のツヤツヤだけ残る。思い出の背景。いっぱい増やしたいよねと映画が言ってくる。

——**夏目知幸**（ミュージシャン）

【初長編作品】

Fプログラム

獅子座

Le Signe du Lion

出演：ジェス・ハーン、ヴァン・ドード、ミシェル・ジラルドン
撮影：ニコラ・エイエ
1959年／フランス／スタンダード／モノクロ／103分

叔母の莫大な遺産を相続することになった自称作曲家のピエール。派手なパーティを開いたはいいものの、遺産はすべて彼の従弟に行くことが発覚。金の無心をしたくても友人たちはバカンスのため不在、一文無しになったピエールはパリの街をあてもなく彷徨う。ロメールの長編デビュー作にしてヌーヴェルバーグ初期の代表作。クロード・シャブロルがプロデューサーを買って出て、自身の監督作『美しきセルジュ』（1958）で稼いだ資金を投入したが、興行的には失敗に終わった。

【初期の短篇集】

Cプログラム

紹介、またはシャルロットとステーキ

出演：ジャン＝リュック・ゴダール、アンドレ・ベルトラン（声：アンナ・カリーナ）、アンヌ・クドレ（声：ステファーヌ・オードラン）
音楽：モーリス・ル・ルー
1951年／フランス／スタンダード／モノクロ／11分

「カイエ・デュ・シネマ」誌が創刊された年、『勝手にしやがれ』の8年前。当時31歳のロメールが本作のロケ地・スイスまでの旅費を、20歳のゴダールがフィルム代を分担して製作費を捻出、ゴダール自ら主役を演じた伝説的な短編。11年後に始まる〈六つの教訓話〉シリーズへと連なる、「一人の男性が二人の女性の間で揺れ動く」という図式で展開される、若者たちのほろ苦く瑞々しい一冬の青春の断片。

Aプログラム

ベレニス（日本初公開）

出演：エリック・ロメール、テレーザ・グラチア
撮影：ジャック・リヴェット
1954年／フランス／スタンダード／モノクロ／22分

かつては美しかったが今は不治の病に冒されてしまった従妹。やつれ果てた彼女の体に光る「白い歯」に魅せられ、執心する男の狂気をロメール自ら演じた幻想怪奇譚。エドガー・アラン・ポーの同名小説をロメールが翻案、撮影はリヴェットが務めた。フランソワ・トリュフォーをして「なんといっても16mmの巨匠はロメールだった。何度も見直した。この5年の間に35mmフィルムで撮られた最高の映画に比肩する素晴らしき」と言わしめた傑作。

Eプログラム

ヴェロニクと怠慢な生徒

出演：ニコール・ベルジェ、ステラ・ダサス、アラン・デルリュー
撮影：シャルル・ビッチ
1958年／フランス／スタンダード／モノクロ／19分

家庭教師のヴェロニクが、生意気でイタズラ好きの腕白少年に勉強を教える数時間の出来事を、ホームコメディのような軽やかさで、ユーモラスに描いたロメール初の35mm作品。当初ロメールとゴダールの共作で「シャルロットとヴェロニクの冒険」と称する喜劇シリーズを構想していたが、第一弾『男の子の名前はみんなパトリックっていう』の脚本をゴダールが無断で改変したことで仲違いし、企画は頓挫。その後撮られた唯一の作品が本作。

Bプログラム

パリのナジャ

出演・台詞：ナジャ・テジック
撮影：ネストール・アルメンドロス
1964年／フランス／スタンダード／モノクロ／14分

ペオグラードで生まれ、アメリカに帰化した後、プルーストの研究という口実でパリに留学している“異邦人”ナジャ。世界中から多様な人々が集まる大学都市に暮らし、気分と興味の赴くまま、ベンシモンのスニーカーにボーダーシャツやチェックのワンピースを着こなして、映画館や美術館、公園を颯爽と歩きまわり、画家や作家たちとの一期一会の交流を楽しむ。しかし、彼女は知っている。この自由なすばらしい時間が永遠には続かないことを。

Dプログラム

ある現代の女子学生

ナレーション朗読：アントワーヌ・ヴィテーズ
撮影：ネストール・アルメンドロス
1966年／フランス／スタンダード／モノクロ／14分

女子学生が急増し、ほぼ男子と同じ比率になったパリ大学。科学の研究に勤しむ一人の女子学生の日常と刻々と変わりゆくパリの街並みを克明に切り取ることで、女性は結婚して家庭に入るものといった旧来の価値観が変わってゆく時代のうねりを、鮮やかに炙り出す“社会派”ドキュメント。強大なバリケードが築かれることになる「パリ五月革命」2年前のカルチェラタンの風景が鮮明に映された記録としても貴重な作品。

Fプログラム

モンフォーコンの農婦

出演：モニク・サンドン
1967年／フランス／スタンダード／カラー／14分

フランス東部の田舎町モンフォーコンの農場に嫁いだ元教師の女性の日常が、自身のナレーションによって綴られるシネエッセイ。トラクターを運転し、畑を耕し、牛からミルクを搾る農婦としての労働。妻であり母でもある家庭人としての日々の生活。そして村の協議会や組合に参加する共同体の一員としての営み。春夏秋冬、ゆるやかに流れる時間の中、大地に根差した暮らしを、皮肉とも憧憬とも取れる浮遊した眼差しで捉えるロメールの底知れない感性が光る。